

黒い画集 あるサラリーマンの証言 [1960年 東宝]



(白黒 シネマスコープ 95分)

松本清張原作『黒い画集』の一篇「証言」を、橋本忍脚色、堀川弘通監督で映画化した作品。40代で中堅企業の課長となった平凡なサラリーマン・石野は、部下の女性と不倫の関係を続けている。女と会った帰り道、自宅の隣に住む保険外交員・杉山とすれちがう。この日向島で起こった殺人事件の容疑者として杉山が逮捕され、石野はアリバイ立証のため証言を求められるが、自分の地位や家庭を守るため、これを拒否する。難を逃れたかに思われたが、事件はそれでは終らなかった。石野の情事を知り脅迫し

【スタッフ】

原作 松本清張
脚本 橋本忍
監督 堀川弘通
製作 三輪礼二
撮影 中井朝一
照明 森弘充
録音 藤好昌生
// 下永尚
音楽 池野成
美術 村木忍

【出演者】

石野貞一郎 小林桂樹
梅谷千恵子 原知佐子
検事 岸本 平田昭彦
脅迫者 松崎 江原達怡
刑事 奥平 西村晃
石野の妻 邦子 中北千枝子
岡崎 三津田健
保険外交員 杉山 織田政雄
裁判官 佐々木孝丸
杉山の妻 みさえ 菅井さん
与太者 早川 小池朝雄
森下 小玉清
(児玉清)

てきた学生が殺され、事件直後その現場を訪れた石野は自らの無罪を証するため、すべてを語ることを余儀なくされる。多くの松本清張作品を脚色している橋本忍の脚本は本作でも冴えをみせ、何気ない日常生活の中に潜む陥穽に足をとられ、徐々に追い込まれていく恐怖を見事に描いている。この作品のヒットによって『黒い画集』はシリーズ化され、『黒い画集 ある遭難』『黒い画集 第二話 寒流』(ともに1961)が作られた。

白い巨塔

[1966年 大映 (東京)]



(白黒 シネマスコープ 150分)

一人の医学部助教授の教授昇進をめぐる展開される、大学内部の権謀術数の世界を大胆に描いた、山崎豊子の同名小説の映画化作品。発表当時、医学界に波紋を投じた小説であり、近年テレビドラマ化もされ、ふたたび話題を集めた。この映画化では脚本を橋本忍が担当し、1950年代独立プロダクション運動などの活躍で社会派として知られる、山本薩夫が監督にあっている。「白い

【スタッフ】

原作 山崎豊子
脚本 橋本忍
監督 山本薩夫
製作 永田雅一
撮影 宗川信夫
照明 柴田恒吉
録音 奥村幸雄
音楽 池野成
美術 間野重雄

【出演者】

財前五郎 田宮二郎
東教授 東野英治郎
里見助教授 田村高廣
鷓鴣教授 小沢栄太郎
菊川教授 船越英二
船尾教授 滝沢修
大河内教授 加藤嘉
今津教授 下条正巳
財前又一 石山健二郎
佐枝子 藤村志保
ケイ子 小川真由美

巨塔」=「大学医学部」の欺瞞性が、山本監督一流の巧みな語り口で小気味よく暴かれ、痛快な作品となっている。野心に燃える助教授を演じた田宮二郎の魅力も、この作品の成功を支えており、俳優として記念すべき作品となった。山崎豊子原作、山本薩夫監督の同系列の作品に『華麗なる一族』(1974)、『不毛地帯』(1976)がある。

張込み

[1958年 松竹(大船)]



(白黒 シネマスコープ 116分)

1955年「小説新潮」に掲載された松本清張の短篇小説を、橋本忍脚色、野村芳太郎監督で映画化した作品。東京でおきたピストル強盗事件の共犯者・石井の行方を追う警視庁捜査一課の若手刑事・柚木とベテラン刑事・下岡は、石井の昔の恋人・さだ子が住む佐賀市に向かう満員の列車に乗り込む。二人は銀行員の後妻となったさだ子の家の向かいの安宿で張込みを開始した。暑い夏の日々、年の離れた吝嗇な夫と先妻の二人の子どもの世話に明け暮れるさだ子の前に、ついに石井があらわれる。ドキュ

【スタッフ】

原作 松本清張
脚本 橋本忍
監督 野村芳太郎
企画 小倉武志
撮影 井上晴二
照明 鈴木茂男
録音 栗田周十郎
音楽 黛敏郎
美術 逆井清一郎

【出演者】

柚木刑事 大木実
下岡刑事 宮口精二
その妻 菅井さきん
その長男 竹本善彦
横川さだ子 高峰秀子
その夫 清水将夫
犯人 石井 田村高広
主犯 山田 内田良平
高倉弓子 高千穂ひづる
その父 藤原釜足
その母 文野朋子

メンタリー・タッチのリアルな描写が緊迫感を盛り上げる。かつての恋人との再会によって、無気力な日常生活の顔から一変して、生き生きとした束の間の輝きを放つ女さだ子を演じた高峰秀子の姿が印象深い。松本清張原作・橋本忍脚色・野村芳太郎監督のトリオ作品としては他に『ゼロの焦点』『影の車』『砂の器』があり、いずれも話題を呼んだ。野村監督は多くのミステリー映画を手がけたが、松本清張原作のものでは他に『鬼畜』(1977)『疑惑』(1982)がある。

悪い奴ほどよく眠る

[1960年 東宝=黒沢プロダクション]



(白黒 シネマスコープ 151分)

黒澤が自身のプロダクションを起こして東宝と共同製作したこの作品は、日本未利用土地開発公団による贈収賄事件の責任の一切を負わされ、やがて死に追いやられた公団の課長補佐の息子が、汚職のカラクリを暴くため、公団副総裁の女婿にして秘書となり、事件に関わった副総裁の部下たちを執拗なまでに追いつめてゆく復讐行為を描いている。この復讐劇がほころびを見せるのは、三船敏郎演じる復讐の鬼の、足が不自由な妻への優しさ

【スタッフ】

脚本・監督・製作 黒澤明
脚本 小国英雄
// 久板栄二郎
// 菊島隆三
// 橋本忍
製作 田中友幸
撮影 逢沢謙
照明 猪原一郎
録音 矢野文雄
// 下永尚
音楽 佐藤勝
美術 村木与四郎

【出演者】

西幸一 三船敏郎
岩淵 森雅之
佳子 香川京子
辰夫 三橋達也
守山 志村喬
白井 西村晃
板倉 加藤武
和田 藤原釜足
野中 笠智衆
岡倉 宮口精二
新聞記者A 三井弘次
有村 三津田健
顧問弁護士 中村伸郎

と、禁欲的なまでの愛情が、極点に達するときである。『隠し砦の三悪人』(1958)に続く、この白黒のワイドスクリーン作品は、戦後の政界に蔓延する汚職に切り込んだ、息もつかせぬサスペンス映画であるとともに、黒澤をはじめ小国、菊島、橋本、久板ら五人の脚本によって緻密に組み立てられた、見事な娯楽映画でもある。「キネマ旬報」ベストテン第3位。